

## 構屋台新調委員会通信 vol. 1

去る6月2日、構公民館に於いて第一回屋台新調委員会が開催され来秋に向けて屋台の新調がスタートしました。

新調各部会で検討をし決定した現時点での新調屋台の仕様についてお知らせします。

### 屋台寸法 三尺

#### ・鋳金具部会

擬宝珠	現行デザイン	大きさは屋台に合わせて調整
紋	四面梅鉢紋	大きさは屋台に合わせて調整
総才端	応龍（飛龍）	
高欄擬宝珠	現行デザイン	大きさは屋台に合わせて調整
隅木端	唐草透かし彫り	

昇り総才、水切り金具、井筒、井筒端、高欄金具、垂木金具、幕掛け金具、棒端環等については今後部会、新調委員会にて検討、決定します。

#### ・刺繍部会

伊達綱	茶金	太さは屋台に合わせて調整
水引幕	白ネル地、追い龍	現行デザインを踏襲しながら微調整
高欄掛け	剣菱縁取 退治物	現行デザインまたは別デザインで検討
乗り子襦袢	赤地	デザインは今後検討
頭巾	白地	デザインは今後検討

#### ・太鼓部会

乗り子を中心に太鼓制作をしております。現行（二尺五寸五分）より大きくする予定です。

## ・木彫刻部会

正角	麒麟、籠彫りに鳳凰
肘木端	唐獅子
脇棒受	梅の木
幣額	天満宮または天満神社

露盤、狭間については菅原道真公の御真影と津田天満神社の社宝である北野天神縁起絵巻（津田本）、また構ゆかりの神様、人物をモチーフに制作してもらいます。これらの図案は次回新調時にと永年温めてきたものです。

## 露盤

### 天神図「束帯天神像」 津田天満神社蔵掛け軸

綱の上に座る束帯姿の天神像を描くもので、通称「綱敷天神」と呼ばれる。「綱敷天神」とは菅原道真公が左遷されて大宰府に向かう途中船を寄せて上陸し、船のとも綱を巻いて敷物代わりにしたという伝承で当地にも伝わっている。天神は険しい表情で右斜め前を向き太刀の柄に左手をかける。衣服には天神にちなみ梅鉢に笹の文様が施されている。手前の一艘の船の泊まる海辺は津田の細江を示していると思われる。



**「落雷災禍」** 北野天神縁起絵巻（津田本）第二十一段

延長八年（930）六月二十六日、またも清涼殿に落雷がありました。火は建物に燃え広がり公家らは火傷を負って死傷しました。これは、天満自在天神の眷属のうち火雷火気毒王の仕業であります。



**「祈天拝山」** 北野天神縁起絵巻（津田本）第十四段

道真公は「自分が無実である」ことを訴える祭文を作って高い山に登り、七日間天道に訴え続けました。すると祭文は飛び昇って梵天までも至ったと思われました。この修行で道真公は天満自在天神になりました。



### 「紅梅別離」 北野天神縁起絵巻（津田本）第九段

道真公の左遷にともない男の子は四人とも四方へ流罪となりました。長年住み慣れた紅梅殿を離れるにあたり庭の梅と桜の木に別れを惜しむ歌を詠みました。その心が通じたのか梅の木は筑紫へと飛び立ったといわれています。



### 天井

#### 「八雲の図」

出雲大社本殿の天井にある「八雲の図」をモチーフにしています。家庭で神棚をお祭りする際に二階建てなど上を人が通ることがある場合神棚の下に雲板や「雲」と書いた紙を貼る風習があります。これは雲の上は天上界であるという意味です。露盤に天神様を戴いており人が屋根に上ることがありますので雲の絵を配しています。ちなみに道真公の遠祖は出雲の土師氏でありその祖は角力の神様、陶芸の神様である野見宿弥であり、さらには天照大神の子神の天穗日命に連なります。

## 狭間

### 「菅原道真公遊歩の場」

津田天満神社の主祭神である菅原道真公が牛に乗り市井の人々に話を説いている場面です。



### 「安芸宮島弁財天が真体を現し清盛が威勢を挫く」

大正九年、構の有志が中心となり安芸の宮島から勧請した弁天社の祭神、弁財天が龍に乗って姿を現し当時思うがままにふるまっていた平清盛を叱責する場面です。



### 「芦屋道満童子問答の場」

浄瑠璃の「芦屋道満大内鑑」の一場面です。陰陽師芦屋道満が問答した子供の受け答えに感服し名づけ親になるという場面です。この時の子どもがのちの安倍清明です。構5丁目には道満の子孫の薬草園の跡といわれる薬塚があります。



### 「天孫降臨図」

高天原から降り下る天孫ニギノミコトの道案内をするため天の八街に立つ猿田彦大神に天鈿女命が問答する場面です。猿田彦大神は神幸行列の先導をつとめる一方、構では「ダカ」として親しまれています。



露盤は再来年、狭間は三年後の予定です。宮元村として誇れるものを制作してまいります。ご期待ください。

※画像はイメージです。また、予算等の関係で仕様が変わることがあります。